ロータリーに輝きを
RI会長　ゲイリーC.K.ホァン
第 2640 地区ガバナー　辻　秀和

2014-2015年
海南東ロータリークラブ
ROTARY CLUB OF KAINAN EAST
RI District 2640 Japan

第 1831 回例会

平成 27 年 5 月 18 日(月)

12：30～　海南商工会議所 4F
ＩＤＭ 報告

１．開会点鐘

２．ロータリーソング　「我等の生業」

３．ゲスト紹介　第 2640 地区ガバナー　辻　秀 和 様

４．出席報告

会員総数 48 名　出席者数 33 名
出席率　68.75 ％　前回修正出席率 62.50 ％

５．会長スピーチ　会長　山東 剛一 君

みなさんこんにちは、本日辻ガバナーが突然メーキャップに見えています。

昨日は「たんぽぽの会」ご参加のみなさん、ご苦労さまでした。たくさんの方のご参加をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。この会も回を重ねること 16 回となりました。本当にクラブ会員全員の協力の賜物だと思います。社会奉仕委員会のみなさんはじめ会員のみなさまのおかげで何のトラブルもなく「たんぽぽの会」のみなさんもご満足で帰られたことと思います。

あと残りますイベントは彰化東南 RC の 20 周年記念への出席だけになりました。

重ねてお願いしますが、一人でも多くの方のご参加をよろしくお願いします。ありがとうございます。

６．幹事報告　幹事　中西 秀文 君

昨日、「たんぽぽの会との交流会」は、天候に恵まれ、皆さんのご協力で無事、盛会に開催できました。

７．委員会報告　社会奉仕委員長　田中 祥秀 君

「たんぽぽの会との交流会」お疲れ様でした。委員会メンバー、役員、会員の皆様のご協力で無事に終えられました。

８．地区 PP 委員会 委員長の委嘱

第 2640 地区ガバナー　辻　秀 和 様

日頃は地区の運営にご協力いただき、有難うございます。地区の新しい委員会として、地区 PP（パスト プレジデント）委員会を設けました。委員長には、貴クラブの楠部さんにお願いをいたします。どうかよろしくお願いします。

９．国体看板の寄贈

紀の国わかやま国体の看板を寄贈いたします。

10.　ＩＤＭ 報告

○１組　発表者　大谷　徹 君

4 月 10 日に「美登利」で開きました。参加者は中村、楠部、上中、桑添、花田、中西、田岡、大谷の 8 名でした。

1）ロータリークラブでやりたいこと・やってほしいこと

2640 地区のごたごたを早く改めてほしい。特に地区資金の透明性を出してほしい(2640 地区には 71 クラブがあり 20 クラブが 15 名以下、10 人以下 10 クラブ)

2）例会への希望

日を変える、時間を変える、場所を変える、等の意見があったので以前にもアンケートやったが現状でとの意見が多かったのでそのままではということで

事務所　〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)
電話(073)483-0801　FAX(073)483-2266
会長：山東 剛一　幹事：中西 秀文　ＳＡＡ：山田 裕之
http://www.kainaneast-rc.jp　E-mail：info@kainaneast-rc.jp

した。今まで海南 3 クラブ合同例会の回数を年 1 回であったのを月 1 回に増やしたらどうですかとの意見がありました。

4）出席率向上について

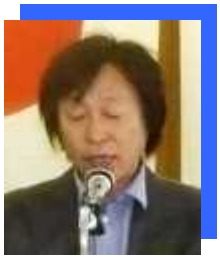
E クラブが認められているので、どこかの E クラブはどのように活動しているのか見学して独立した E クラブではなく海南東ロータリークラブの中に置き活動することにすれば出席率向上にもなりまた会員増強もできる。

5）40 周年についての感想・記念誌についての希望

皆さんにそれぞれのコメントをもらい短く入れる。時代の流れで 1 冊の本にするのではなく CD でして配布する。

今回は有意義な IDM でした。

○２組　　発表者　重光 孝義 君



4 月 11 日に「美登利」で開きました。参加者はリーダーの岸、副リーダーの重光、宮田、岩井、千賀、横出、上田の 7 名でした。

1）ロータリークラブでやりたい事、やって欲しい事

野球部の結束を強くしたい(みんなで楽しみを享受する事が当クラブの発展に繋がる)。昼の出席が難しい為、夜の例会を増やして欲しい。第 1、3 夜にしてみては？一度チャレンジ期間を作る。

2）例会の希望

夜例会を増やす。温かい物を増やして欲しい。

3）わからない事、知りたい事

宮田さんから、逆に質問。選挙人とは何か知っていますか？(ガバナー選挙)。選挙人とはクラブの代表者の選挙権ではなく、クラブの意見の代表。英語、カタカナ言葉が覚えづらい。

4）出席率の向上

休みが多い人には電話をする(長く休むと行きづらくなる)。普段から積極的にみんなと話す。

5）40 周年についての感想、記念誌についての希望

お金はまだあると思いますが、無理をせずに 50 周年に残す。お金は使ったらいいと思う。両方の意見がでました。記念誌にはみんなの一言を載せてはどうか？今までの写真を載せる。新春例会はゲストもたくさん出席して頂き良かったと思う。特にマグロの解体ショーは盛り上がりゲストも大変喜んでいたと思う。

6）その他

お酒を飲みながら終始出席率の話に尽きた。

○４組　　発表者　三木 正博 君

4 月 1 日に美登利で行いました。出席者は前田克仁、木地、萩野、阪口、三木の 5 名でした。当日は都合のつかない方が多く、少ない人数の IDM となりました。

議題はいくつかありましたが、お酒が進んでいたものですからすべて一緒にやってしまったという状況でした。

①海南3クラブの合同例会を1年間に何度か開催してほしい。同じ海南地区にいるのですからお互いに親睦を深めるためにも良いのではと思います。

②他のロータリークラブがどのような例会を行っているのかを知りたいと思うし、当クラブの例会に参考になることがあるのではと思います。

③新入会員が入会する時は、出席義務等をロータリアンとして守らなくてはいけない事を事前に十分に説明して納得してもらって入会していただく必要がある。当クラブにおいても、以前は出席に関しても先輩ロータリアンから厳しく指導されました。例会を欠席した場合は、必ず他のクラブでメイキャップするようにと言われました。今は、まったくそのような状況でないです。

○5 組　　発表者　大江 久夫 君

4 月 18 日に「美登利」で開きました。参加者は中尾リーダー、宇恵、山東、吉田、上野山、朝井、田中、大江副リーダーです。

1）ロータリークラブでやりたい事・やって欲しい事

・会員同士なごやかな付き合いをやっていきたい。
・IDM のような少人数の会を多くやってほしい。
・クラブがバックアップして、海南の活性化を応援してほしい。

2）例会の希望

・今年は、例会の出席率が悪いので、会員増強して出席率も上げてほしい。
・例会出席の時、少しは服装も気にしてほしい。

3）ロータリークラブについて分からない事・知りたい事

・2640 地区の運営の歴史で、以前の運営の仕方また今の運営の仕方に何か分からない所がある。
・2640 地区の運営を正常化できないものなのか。

4）出席率向上について

・全国のロータリークラブでも、出席率向上のためにいろいろと対策をとっているということです。
・メイキャップに行く人が少なくなっているので、もっと出席するべきである。
・例会出席を促すと、退会する人が増えるので、あまり出席率を言わないようになっている。
・例会の出席を癖にする。
・例会の始まる 30 分ほど前から来て、会員同士雑談を楽しむ。

5）40 周年についての感想。記念誌についての希望

・記念誌を変えていくべきである。
・CD でもいいのでないか。
・40 周年は記念誌にして、もう少し簡素化する。

6）その他

・新入会員には、紹介者以外に指導者をつければいいのでないか。

11. 閉会点鐘

ニコニコ・BOX

谷脇　良樹　君　辻ガバナー、ようこそおいで下さいました。
山東　剛一　君　たんぽぽの会、社会奉仕の委員会の皆様と会員の皆様、お疲れ様でした。
中西　秀文　君　たんぽぽの会参加の皆様、暑い中ご苦労様でした。
角谷　太基　君　社会奉仕委員会の方々、昨日は、たんぽぽの会ありがとうございました。
田岡　郁敏　君　昨日は、たんぽぽの会、お疲れ様でした。家族共々、楽しい１日でした。
重光　孝義　君　ＩＤＭ２組の発表をさせていただきます。
山田　裕之　君　たんぽぽの会、お疲れ様でした。
楠部　賢計　君　辻ガバナー、よろしくお願いします。
ＩＤＭ５組の残金です。

次回例会
第 1832 回例会　平成 27 年 5 月 25 日(月)
12：30～　海南商工会議所 4Ｆ
ゲスト卓話
「今後の株式市場の展望」
ＳＭＢＣ日興証券（株）
和歌山支店長　　林　毅　様

社会奉仕委員会

たんぽぽの会との交流会

たんぽぽの会、カヌー協会の方々

山東会長

Rotary ロータリージャパン

世界予防接種週間
ワクチンで子どもの命を救う

4 月 24～30 日は「世界予防接種週間」ですが、この週間は、ワクチンで予防可能な疾病（ポリオを含む）に対する予防接種をもっと徹底させることで、命を落とす人を減らすことができるという事実を再確認するよい機会です。というのも、予防接種をより充実させることで、世界で推定 2～300 万人の命が救われるという予測が出ているだけでなく、ロータリーと世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）、各国政府や保健関係機関によって構築されてきたポリオ撲滅のインフラストラクチャーがほかの疾病の予防に生かされているためです。

ロータリーが世界的なポリオの撲滅を目的として、世界保健機関（WHO）、ユニセフ、米国疾病対策センター（CDC）と GPEI を開始した 1988 年、世界では 1 日に 1,000 人以上がポリオに感染しており、そのほとんどが子どもでした。ロータリーとパートナーによる活動によって、現在ではポリオの発生数が 99%減少しており、2014 年の発生数は 400 件以下に留まっただけでなく、常在国（ポリオが今も存在する国）は 3 カ国となっています。

ポリオ撲滅でこれだけの進展が見られたのは、何百万人ものボランティアや保健従事者による遠隔地での予防接種活動、世界的な監視体制の構築、緊急事態への対応能力の向上によるものです。ポリオ撲滅活動で構築されたインフラは、ポリオ以外の感染疾患の対策や予防に役立てられています。「ポリオのない世界を実現するために重要な役割を果たしてきたのはロータリアンです」と話すのは、ロータリーのインターナショナル・ポリオプラス委員長のマイク・マクガバン氏。「13 億ドル以上の寄付、各国政府へのアドボカシー活動、世界中での予防接種活動への参加など、ロータリアンが積み上げてきた実績によって、世界の子どもたちに遺産を残すための土台ができました」

ロータリーとパートナーは現在、ポリオ撲滅活動からのレガシープラン（遺産計画）を実施することを検討しており、それには 2 つの重要な要素があります。

長年のポリオ撲滅活動から得られた知識や教訓を、ほかの保健上の取り組みに生かすこと：
ポリオのワクチンを遠隔地に普及させる活動において、GPEI はさまざまな困難に直面しながらもそれを克服し、多くの教訓を得てきました。結果として、ポリオ予防接種従事者は、ポリオ撲滅以外の活動（駆虫剤やビタミン A 剤の配布、はしかの予防活動、マラリアやその他、蚊を媒介とする感染病を防止するための蚊帳の配布、定期的な予防接種活動など）にも着手することができるようになりました。綿密な計画、感染例の分布図づくり、移民の追跡、社会動員プログラム、システム化された研修、予防接種チームの派遣などにおいて、GPEI は画期的な方法を取り入れてきました。

ポリオ撲滅以外の取り組みを支援するというのは、1985 年にポリオプラス・プログラムが開始されて以来のロータリーの戦略の一つでもあります。ポリオプラスの「プラス」の部分、つまり、ポリオワクチンの配布だけでなく、ほかの疾患や栄養失調などから子どもたちを守る活動を続けてきたということです。

ほかの保健上の優先課題へ生かすため、GPEI が構築してきたプロセス、能力、資産を転用する：
GPEI は、世界でのポリオ発生を特定し、調査を行う研究所から定期的に報告を受けています。この研究所の監視ネットワークと対応システムは、はしか、破傷風、髄膜炎、黄熱などの突発的発生への対応に役立てられてきました。さらに、重症急性呼吸器症候群（SARS）の世界的流行への対策に寄与しただけでなく、2010 年のパキスタンでの洪水、2004 年の東南アジアでの津波もその一例です。最近では、ナイジェリアで発生したエボラ出血熱の対応において、ポリオ撲滅のインフラと監視システムが利用されました。

「ロータリアンは実に 30 年もの間、世界でのポリオ発生数を 99%減少させるために尽力してきました」とマクガバン委員長。「122 カ国での撲滅につながっただけでなく、ほかの保健上の課題に対処するためのロードマップを描きました。これは、すべてのロータリアンが誇りに感じるべき業績です」

WHO は 5 月に行われる世界保健総会で、この「Global Legacy Framework」を検討することとなっていますが、ロータリー会員をはじめ多くの人びとが、引き続き、目前に迫ったポリオ撲滅のために一丸となって支援することが重要です。

タブレット端末を利用した教育支援

フィジー第 3 の島、タベウニ島。豊かな風土に恵まれ、美しい夕暮れや滝が有名なこの島は、通称「garden island」（庭園の島）とも呼ばれています。島には多くの観光客が訪れますが、地元の人たちは観光客との交流を除いては、ほとんど外部との接触なく生活しています。主な雇用主は政府で、そのほかの仕事は農業がほとんどです。島で学校に通う学生のうち、高校を卒業するのは 30%、大学に進学するのは 10%に留まっています。また、住民は、貧困と不十分なインフラにより、現代のテクノロジーを十分に利用することができません。

タベウニ島のブカレブ高校に通う 17 歳、アセナカ・セパさんは看護師になることを夢見ており、彼女のクラスメート、ライセニア・キディアさんは、海洋生物学を学びたいと考えています。そこで生徒たちがもっとテクノロジーを学んで活用し、大学へ進学し、就職できるよう、タベウニ・RC が立ち上がりました。「コンピューターのスキルをしっかりと身につけて、社会に出てもらいたい」と話すのは、同クラブ会員のジョフリー・エイモスさん。オークランド技術大学、ニューマーケット RC、ボタニーイースト・タマキ・RC、エラースリー・サンライズ RC（ニュージーランド）と協力し、タベウニ島のロータリアンは、ブカレブ高校とニウサワ・メソジスト高校に 70 台のタブレット端末を寄贈するプロジェクトを実施しました。第 9920、9970 地区からの資金提供、さらにロータリー財団からのマッチング・グラントも受けたプロジェクトです。

タブレット端末の使い方について研修を担当したのは、カナダ出身で、ニュージーランドへ留学経験のあるロータリー奨学生、ケルシー・コックスさんです。「この小さな端末から、かなりの情報を得ることができるので、教室の外に広がる広い世界について学ぶのに最適です」とコックスさんは話します。

使い方の研修では、アプリを通じて細胞の構成について学んだ生徒たち。「これだけコンパクトな端末から教科書 100 冊以上の情報に手軽にアクセスできます。実際に画像を見ながら学ぶことができたので、細胞がどのようにつくられているのか知ることができました」とセパさん。キディアさんも、タブレットを使って学ぶことによって、大学進学への準備ができると期待を膨らませます。　寄贈されたタブレットには、事前にさまざまな教育関係のアプリがダウンロードされているだけでなく、歌を録音し、ビデオを撮影できる機能が備わっています。これらの機能を使ってフィジーでの生活や文化を紹介するビデオを作成するのも目的の一つです。

このプロジェクトの目的について、「地域社会の将来をより良いものとするために、どんなことができるかを地元の人たち自身が考える応援をすること」と話すコックスさん。より良い地域社会への変化はすでに始まっています。エイモスさんによれば、2014 年のテストで、生徒たちはすでに以前よりも高い成績を収めているとのこと。コンピューターのスキルも高まっているため、大学への進学、就職の可能性もさらに広がっています。

会報委員会　委員長:寺下 卓　副委員長:阪口 洋一　委員:土井 元司　木地 義和　小久保好章